

舞殿（下拝殿）

舞殿は本宮へと続く大石段の真正面に位置しています。「下拝殿」とも呼ばれ、階段を上れない人も本宮をここから参拝することができます。一年を通し、さまざまな祈祷が行われたり舞や雅楽が奉納・奉奏されたりする場所で、神前結婚式も執り行われます。舞殿は朱と黒の漆で塗られ、水の象徴である花や葉、鳥をモチーフとした彫刻や絵で飾られています。鶴岡八幡宮の創建後数年のあいだ、この場所には鶴岡若宮の回廊がありました。1186年、白拍子として名高かった静御前（1165-1211）がこの回廊で初代鎌倉将軍の源頼朝（1147-1199）のために舞いを披露しました。

静は、頼朝の異母弟で優れた武将としても知られていた源義経（1159-1189）の妾でした。頼朝は鎌倉幕府成立後に義経と対立するようになり、頼朝から逃げる中で義経と静は離れ離れになってしまいます。静はその後幕府軍に捕らえられ、鎌倉に連れて来られました。頼朝の命により舞いを披露した際、静は義経を恋い慕う歌を詠みます。これに怒った頼朝は静を殺すよう命じますが、頼朝の妻は自分が静の立場でも同じように心情を表すだろうと言ってとりなし、静の命を救いました。この物語は後年いくつもの叙事詩や年代記で語られるようになりました。